夕刊 磐城新聞
九月一日發行
定價 一ヶ月金六十五錢(郵稅拾五錢)
廣告料金 普通欄 一行金六拾錢 特別欄 一行金九拾錢 五號十二字詰 一行 (場所指定 一行增)
編輯兼發行人 柏木哲 福島縣石城郡平町田町十六番地
發行所 磐城新聞 合資會社
電話五六四番
(日曜祭日翌日休刊)

市制實施と農村の發展

平田浩

(下)

平窪は純農村で進みたいと云ふ考へ方を持つてゐられる方も多いやうだが、今後社會の發展は純農村で行くこと困難である。日本の農業の經營は都市工業、商業より遙かに遲れてゐる、自動車、ガソリンカーは走つてすべてが機械化されてゐる今日、徳川時代の農具を今尙使用してゐる狀態であるからその產業方法は都市から見て未だ〳〵幼稚であり、それを機械化するにはあまりに土地は狹く、餘剩勞働に困る、これが純農村の癌となる、で、識者の間からは農村救濟の急務と云はれてゐる、平隣接の村が一丸となることに依つて農村の癌はとり除かれる、それは近くに安廉な石炭はある、水利はある、餘剩勞働はあるこれを有利に使用すること——工場の施設——は平隣接村民の生活の向上と文化の發展となることは火を見るよりも明かである

○

N氏が日本ソーダ會社の建設計劃があると云ふやうに、今後の平は工業地となるのであろうし、またなさねばならぬ、それには燃料と水利と勞働のよい條件がそなはつてゐるからである、地方民の生活の向上、文化の發展をさせるか、させぬかは地方民の努力にある、決して棚からぼた餅は落ちて來ない、經濟更生と云ふて個々村が別々の計劃を立てゝも成功しない、近村が一丸となつて、產業資源、產業施設——桑園の病蟲害にしろ、果樹園の害虫、作物の栽培、生產物の販賣——これ等はみな、各村の共通の問題であつて、これを對立させることが如何に不利であるかを知らねばならない

平隣接村は當然合併して一日も早く市制を施行すべきである

井上議長は村農會が一蹴市農會になると云ふてゐるが、村農會として他村と對立してゐるより、四ヶ村が合併して市農會としてその地勢と勞力に應じて農作物の栽培の研究と販賣の統制と餘剩勞働を完全に利用した時如何に農民の生活が向上し文化への飛躍であるかを空想でなく、數字的に立證され得るであらう

農民の生活向上は純農村として行くことでなく平町と合併して共同作務と統制ある販賣、財政、產業及び資源の合理化等にある

謫源義朝墓

珠窓 小野務本

英雄末路奈間關
鬼氣淒凉墳墓間
恨殺泥堂無一物
木刀今見積成山

精神窓

岡松雄

○野の涯に蛇奪ひ合ふ鴉どもを街にもみればやりきれぬなり
○絕望の氣持からわれ脫けるべく蝮酒呑みて山に寢るなり
○夕暮れを山に歸れば右手あけて植物に物言ふこれがわれであり
○アドレスのない手紙をばしたためて眞夜中の野にそつと葬る
○夕暮の野に祈りをれば古寺の鐘ひびききぬふるさと戀し

詩の批評に就て

西哀川我房

(中)

元來詩は時代的な存在であるが故に、それ故にその周圍との連關が重要なる役を爲すのである。殊に現代詩の現實化に依り民衆一般の欲求となれる生活、生命、思想の對象にあつては、かゝる科學的批評が凡ゆる健康な力と美をそゝぐのである

次に全然異なる批評を分類するに、大きく主觀的批評・客觀的批評とがある。夫々文字の示す如く前者は批評家の主觀を通じた批評で、これは批評家自身の賞力如何に影響して來るのである。此の批評は即ち批評家自身がそれ自身の批評と同樣の結果となるが故に、批評家の鑑賞力と人格が充分に具備されて居らべき必要がある。批評家の鑑賞、人格か之に反する時は全く取るに足らぬ批評が生じ、寧ろ滑稽な形になるのである

次に客觀的批評は批評する詩作以外に一定の標準程度があつて、それに對象しての批評故に、又は先天的批評等とも云つて居る。非常に形式にとらはれるので又形式的批評とも云ふ。此の批評は形式にとらはれぬやうすべきであるが、大低の場合は形式にとらはれてしまふのである。こんな風に書くと果して批評の眞に方向と價値が漠然としてわれわれから遠い處にあるかの樣に思はれる。しかしこれに就いて平易な島村瀧太郎氏の言を借りる

『文學批評は何よりも味ひが基とならなければいけません。すなはち作品に對して自分が感じ得た味ひを基としなければなりません。そして味ふには何よりも心を純なわだかまりのないものとして出來るだけ作のよい所を受け入れるやうにしなければなりません

深みゆく秋

青芝港一

秋の深さよ——
わすれし人も
遠くたよりを
もたらしぬ

ひとり汲む茶に
茶柱立てど
なせにはずまぬ
こゝろやら

秋の深さよ——
きのふも今日も
幼馴染の
嫁くうはさ

9月2日

△ギリシヤのアクチウム海戰(紀前三一)△源爲朝を伊豆へ流す(保元元)△ロンドンの大火(一、六六六)△伊藤博文生る(天保八)△小名濱で關東北水產大會(昭和一〇)

小説 高橋是清

(107) 松浦泉三郎作 佐々木今朝吉畫

特許道中 (二)

發明專賣特許規則の作成も間もなく成案を得て參事院に提出されたが、この通過には相當の難關があつた

なにしろ難かしい問題だつた。曾て、明治四年に一度、發明專賣略規則の發布を見た事があつた。が、これを實施する段になると、發明の審査に當る者がなかつた。やむなく多數の外國人を雇はねばならず、この費用も相當多額を要し、然も反對に、見るべき發明もないと言ふので、これは、翌五年三月廿五日、布告第百五號を以てその實施を中止した。それ程難かしいものだつたので、參事院では反對論は多く、一時停頓の形であつた。通過は至難と見られた

そこへ、森有禮が歸つて來た

森は參事院議員だつたので、是清は歸朝早々の森を訪れて、盡力方を懇願した

森は喜んで承知し奔走したお蔭で案は參事院を通過し元老院へ廻付された

ここでも反對の議論が多く、且政府部內に、これが說明の任に當る。適當な人物がゐなかつた爲、是清が臨時內閣委員を仰付けられて、その說明に當つた程であつたが、論議の結果兎に角無修正で通過し、十八年

四月發布、七月一日から施行される事になつた

かくて是清は、四月廿日付を以て、弱冠卅一歲で、專賣特許所長兼務を命せられた

發布と共に、制度取調局長官伊藤博文から、農商務卿西鄕從道へ

『この法律施行に當り、先づ主任者を歐米に派し、宜敷詳細なる取調をなし來らしむべし』

との、通牒があつた

是清は早速準備調査の命を受けた。二ツの條令と既に實施されてゐるのであるとして、出願數は日々共に增加の趨勢にあり、一般にも、漸次その効果は認められて來てゐるのである。海外先進國の制度組織を研究し、我國に於ける制度を確立し、組織の完璧を期する事は刻下の急務でなければならない。是清はそう考へた。そして、海外に於ける調査項目を列擧し、意見書を付して、一日も早く、調査員を派遣されたき旨を答申した

吉川大輔、富田工務局長が共にこの意見には同意したが、海外派遣の事は經費の如何が問題となつて、行惱みの狀態にあつた

が、何が仕合せになるか判らぬものである。當時省內には勢力爭ひが始まつてゐた。卿輔退迭の結果、品川大輔に代つて吉田大輔が入省すると共に從來品川系と見られてゐた人々に對し、これが省內からの驅逐策が暗々の裡に講せられてゐた

れが是清の海外派遣を促進せしむる結果を生んだのである。太政官への上申書は十一月に裁可された

そして、十六日付を以て是清は歐米出張の辭令の受けた。同廿日宮中に召され聖上陛下に拜謁仰付けられ廿一日には農商務省書記官を拜命した

橫濱出帆は廿四日と決つた。諸般の準備は全く備つた。盛んな送別の宴が開かれた。森有禮はゼネラル・イートンに宛て、長文の紹介狀を書いて與れた。當時イートン將軍は教育の司職にあり、世人の尊敬を一身に集め、米國ばかりでなく歐洲各國にも多くの有力な知友を持つてゐた。是清は感激して受けた

廿三日午後、新橋驛頭は黑山の見送人だつた。萬歲の聲がどッと湧いた。四時發、汽車は橫濱へ向つた。かくて是清は同夜サン・パブロ號に乘込み、翌朝午前六時、思ひ出のアメリカに向けて故國を後にしたのである

酒店員入用
二名 自轉車に乘り得るもの(靑年、壯年各一名)
住込み、通勤、給料等面談の上
姓名在社

廣告
松村醫院
院長 松村鐵郎
平町南町電一〇七

はつねぎ
桑原柔道整骨院
平町公園下 電話六七四

藥品百貨
福島縣平町二丁目
西村屋藥舖
藥劑士 鈴木堅助
電話 三番
振替 東京六・[illegible] 仙臺一・[illegible]

美味デ滋養ニ豊富ナ
にんべんノ
新鰹魚節ガ
出來マシタ。
宍戸屋商店
平町四丁目 電話(鹽干部)二一五番 (鮮魚部)四〇七番

日華生命保險株式會社代理店
外務社員募集
(委細面談)

自轉車・リヤカー
品質本位と正直な値段
フタバ商會
平・新川町郵便局前 谷屋呉服店トナリ

御禮
生ビール發賣以來連夜豫定の樽數を賣盡し有難う存じます。就ては御禮として毎土曜日を黑ビールデーとして御奉仕いたします。
平 會館 電六二四

難波醫院
內科 小兒科
入院應需 自炊の便あり
平町大町 電話五〇二番
(看護婦見習、看護婦募集)
醫學博士 難波陸

銘木(床ノ間材) 天井板、ベニヤ板買ふなら確かに御期待に添ふ良品廉價の
万 織田材木商店へ
福島縣平町 電話平四六〇番
一變せる勉強振りを、ぜひ一度お試を乞ふ
營業種目 建築木材一式 銘木・ベニヤ板 秋田產杉四分板 建具材・便利瓦

產科 婦人科 花柳病科
午前宅診 午後往診 入院應需
井坂醫院
平町田町(元合津醫院跡) 電話五五九番

御知らせ
防虫劑 玉ナフタリン 左手一杯ツカミ取進上
開業三十週年記念謝恩デーは大好評を博しましたにつき引續き毎月十五日を謝恩デーと定め御買上金五十錢以上の御客樣に『玉ナフタリン』を差上ます。
アセモ、タダレに妙藥 トフメルを無料でつけて上げます。
藥と衛生相談所 平町古鍛冶町縣社の下
阿康藥局
電話四四番 振替口座東京[illegible]

銅器・竹製品・籠盛花投入一式
生華用花器は
平町一丁目 和 和久井屋
電話[illegible]番

實家は靜岡產地ノ茶問屋
生產家カラ直接需用家へ
香味自慢生一本小笠銘茶
安價提供出來ル皆樣ノ店
買テ喜ビ賣テ喜ブ理想ノ店
卸小賣 大角園
平町揆槌小路

X光線科 整形外科
平町才槌小路四
大河內整形外科醫院
醫學士 大河內一郎
電話五八八

內外 建築材 建具材
入 阿部材木店
磐城國平町(公園下)
阿部好利
電話四九四番(改メ)

大至急
會員募集
年齡、學歷を問はず堅實なる婦人を望む
上原家政婦會
平町紺屋町 電話 二二番

一發八十兩の壯觀！
愈よ來五日、鎌田の流燈會に　呼物、防空大仕掛花火

愈よ來る五日（舊七月二十日）－鎌田の燈籠流しが迫つたので地元青年團ではこれが準備に忙しい危い處で存續ときまつた丈けに今年は商工會、青年本團、社會事業助成會等が極力後援して例年以上盛大に催すべく當夜の呼物である仕掛花火も目下念を入れて選擇中であるがはやきまつた處では來る防空演習に因んだ一發八十兩の大物を筆頭に『瀧の白糸、菊花園』等の凉味タップリなもの、當日は土曜日なので相當雜沓を呈す事であらう

。。。。。。平町土木委員會　四日午後一時から開き町有地特賣

今二百十日無事
蒸し暑さも下り坂　愈よ新秋に入る

今日は二百十日、あの關東大震災があつて以來といふもの九月一日といふ日に二重に空怖ろしい氣持がするが、小名濱測候所では『心配することはありませんよ！』と前提してから語つた　今年の二百十日は大体昨日と同じやうに、むし／＼と暑く曇り勝ちの天氣です、ところによつてはさつと雨位降るかも知れません、目下高氣壓が南方海上に勢力を張つてゐるのと雲量が多いために殘暑型でむし暑い日が續くのです、しかしこのむし暑さも三十日を絶頂にしてもう下り坂ですから、ぢきに凉しくなりませう、まア今年の二百十日は無事で結構ですよ

鰯關係生産品檢査
明年度から實施　品質の向上を圖る

郡下各濱漁業組合では鰯漁期を控へて惡質漁油驅逐策として縣營檢査制度の實施を要望過般來縣當局に猛運動中であつたが、この程縣農林技師來郡し漁業組合と打合せの結果急速に計畫進展、明年度より希望とほり之を實施することゝなつた主任技師以下九名の檢査官が小名濱を中心として隨時四倉、江名その他各濱に出張檢査するが檢査は單に漁油のみに限らず魚肥、煮干鰯乾製品にも及ぼし、これによつて品質向上を圖るとゝもに積極的に改良指導に當らうと意氣込んでゐる

小川橋落成
明二日擧式

小川郷驛前の小川橋は平町堀江工業會社請負ひで過般來工を進めてゐたが此程竣功したので昨三十一日縣土木課矢部技手の檢査を濟まし愈よ明二日午前十時からこれが落成式を擧行する

健康を提げて緊張の二學期へ
けふ各學校始業式

愈々爽凉九月、海へ山への樂しかつた夏休みも終つて今日から『緊張の第二學期』であゐ、健康に陽燒した彼等を迎へて校舍は長の眠りからさめ街は彼等の往來で新しい活氣に甦つた、平町各學校では始業式後（磐中は三時間授業）夫々校舍校庭を清掃して明日からの緊張に備へ殊に第一校では尋常六年生紗校希望百二十餘名のため模擬試驗を行つて早くも緊褌にかゝつた、なほ三小學校の始業は午前八時、當分短縮授業を續ける

尙は植田署では演習當日の取締に關し明後三日自動車業及料理店、飲食店業を召集して燈火管制其他營業者の心得ふべき事項を訓示すると

出荷激增
けふ俵米共販

石城販聯の俵米定期共販は今一日午後から行はれたが出荷は千七百八十七俵と云ふ多量相場は若干下り氣味を豫想される

顧其他を防護する

防空映畫

平町聯合防護團では來る防空演習を前にして町民の注意を喚起することゝなり三、四の兩日世界館で防空演習活動寫眞會を開くが入場料普通席十錢、ブロ左の如し

敵機襲來　防空日本（鈴木興行團）半島の舞姬　浪人囃し

。。。。。救護、防毒班協議　平町聯合防護團では明二日午後一時から町會議事室に各方部團の救護、防毒班幹部並に醫師を招き種々演習の打合せをする

。。。。。日赤救護所變更　日本赤十字社福島支部の防空演習臨時救護所は平第三小學校の處都合で磐城訓盲院に變更された

郡下教員異動
除隊關係の分　昨卅一日發表さる

短期現役兵除隊による縣下小學校教員異動中郡下關係左の如し

新	舊	
平第一	新山	齋藤　榮
平第三	四倉	鈴木　定光
内郷高坂	嚴江西部	藤本　正
好間	神谷	佐藤　篤
飯野	金房	吉田　憲吾
赤井第二	廣野	荒　節子
内郷第一	赤井第二	鈴木　キミ
植田	勿來	蛭田　秀寳
川前	飯野	鈴木　德明
差塩	湯本	鈴木　逹也
神谷	内郷高	浦山　貞一
錦	内郷二	吉田　タツ
山田	富岡	高萩　シン
江名	石森	宗像　忠興
休職	江名	須田　弘

植田防護團
昨日結團式擧行

植田防護團結團式は既報の通り昨卅一日午前九時より小學校に於て擧行、國歌合唱、宮城遙拜の後古川町長の非常時強調を加味した式の辭、來賓代表久和署長の祝辭があり正午閉會した

出廻り千貫突破
連日活況の植田繭市場　愈々最盛期に入る

連日活氣を呈しつゝある植田繭市場は昨卅一日に至り一躍千百五十貫の出廻りを見たが、この狀勢は茲三、四日は續くものと見られて居る、昨日の相場左の通り

高値四六九錢　安値四四〇、駟四、六〇　掛目三七

四倉市場　昨卅一日の取引左の如し

出廻六四九貫三一〇匁　高四、六四　安四、〇〇　駟四、四七　掛目三五

爽凉景物詩
傘さして踊りの見物　昨十五夜雨中の賑ひ　早くも今日は送り盆

前夜各ざい方で小手調べを濟ましたヂャンガラ囃や、色々な扮裝に想ひを凝らして踊り子達が待望した昨宵盆十五日は、午前中からの曇天に少からず人々を懸念させたが、點燈には未だ間のある頃から乘り込んだ數團によつて其所こゝに始められたヂャンガラの序奏が之亦待ち構へた大衆の盆氣分を唆り出した頭から遂々小雨となつて降りみ降らずみ大に人の出足を鈍らせた、それでもさして豪雨と云ふでもなし折角出掛けた見物人は別に引上げやうとせず涎出の組は大帶のご念入りに悠々と傘さしで橋の下やヂャンガラ囃を圍むと云つた有樣、斯くして雨氣凉しい鋪道にはお盆禮讃の群衆が往ふさ來るさに櫛の齒を挽く混雜を見せたが雨の祟りは著しく人出に影響し常陽銀行及びマルトモ三井の兩四辻に平署で設けた交通整理の信號燈附近を最大として人出は寧しろ例年に及ばぬ觀があつたもののこれで天候さへ良かつたなら――と今日も引續きの曇りに最後の今夜を懸念してゐる

スヽメ＝トマレ　色鮮かな信號燈
平署の交通整理好評

本町二ケ所に於ける平署の交通整理は雨に人出を阻まれた爲、思ふ存分の機能を發揮する迄に至らなかつたが、スタンドに立つ交通巡査によつて間斷なしに吹鳴される警笛と青の『スヽメ』赤の『トマレ』の色彩も鮮かなゴー・ストップの信號燈に一糸亂れぬ統制を見せた事は從來に無い一種の盆風景を加味したものとして異に一石二鳥の好評を博してゐる

平日のザツと二倍
きのふ平驛の乘降客

昨宵十五日は生憎の雨模樣で近在からの出足も止まり勝ちだつたので平驛の臨時（ガソリンカー、普通列車各三本）も（乘）一、三六三名（降）一三三名　計一、四九六名と云ふ閑散さ、一日を通じての乘降客は（乘）五、七五一名（降）五、一九七名　計一〇、九四八名で平日のザツと二倍に過ぎなかつた

無智な女を騙し骨までしやぶる
平町生れ鈴木恒造檢擧

三十日午後九時ごろ土浦二業指定地内を徘徊する擧動不審の男を土浦署の田家刑事が連行取調の結果意外にも公私文書を僞造し女を種に前借踏倒しをやる名人で警視廳初め數署が手配中の犯人と判明した

この男は平町生れ周旋業鈴木恒造（亮）で昨年四月二十九日宮城縣鹽釜町小島町料理店横山リキさん方の抱酌婦石田ミサ（三四）が五百圓の前借のつたのを連れ出し八百圓で東京市龜戸町銘酒屋松村文七さん方に住込ませ翌日逃走させ銚子町料理店坂本千代さん方は二百圓で賣飛ばし女が勝手に逃げた如く裝つて圖々しくも更に松村に赴き自分が見つけてやつたと恩に着せ二百圓を出させた揚句南洋に賣飛ばしたもので、その間美貌だが無智なミサの前借證書及び戶籍抄本等をたくみに變造し骨までしやぶつた惡辣さには取調の係官も舌をまき、なほこれに關連した餘罪がある見込で引續き關係各署に照會中である

石炭需要增
黃金時代を立證

石炭聯合會加盟社の下期（九月－三月間）に於ける調節延炭高は需要激增に鑑み上期よりも百九十萬噸增送して一千三百八十九萬三千噸と決定したがこれに對する下期中の總需要額は昭和石炭調査に依れば二千百萬噸と豫想されてゐる、これは石炭界が正に好調の波に乘り黃金時代にあるを立證するものである

。。。。。參事會員歡迎會　平町では明後三日出納檢査に來平する縣參事會員の一行を招ぎ四日午後六時から住吉屋本店で歡迎會を開く、會費二圓

。。。。。早熟の暴行に廿圓。。。　四倉町新町食肉商太平長男鈴木泰一（一八）假名－は去月二十三日夜十時半頃同町警察署前御免橋で行き逢つた同町仲町植田三郎方猪狩四郎（二〇）に故なく睨んだと難癖をつけ『顔をかせ』と隔離病舍傍の暗がりに連出して毆りつけて全治要一週間の傷害を與へたが此程平區から略式命令で罰金二十圓に處された

天氣豫報
（小名濱測候所發表）

今晩は北東の風雨、明日は南東の風曇

直らぬ盜み根性
一意報國の決心もにぶり　再び踏み込んだ惡の泥沼

昨報＝小名濱を荒し高飛び一歩前で平署に捕はれた當時小名濱町渚吉田光一（三）は昭和元年勿來尋常小學校四年で中途退學すると直に上京、葛飾區大島二丁目米問屋門倉商店に住込んだが手癖が惡いので永續きせず其後自動車助手、出前持ち等轉々職を替へてゐるうち惡の仲間に入つて盜みを働き一年以上三年の刑期を務め上げ、今年一月郷里小野新町で徴兵檢査を受けた處甲種合格（步兵）となり『これで御國の爲に働けるぞ』と決心を固めてゐたが遂に盜みの手癖は直らなかつた

無情な亭主
出稼の妻を棄て　近所の女に走る

今一日早朝平署に『無情な亭主を說諭して下さい』と願ひ出た女があつた

四倉町本町漁夫定吉妻高野コン（三八）

三年前迄酌婦をしてゐたが身請けされ、今年二月家計が思はしくないの錦村昭和人絹工場へ出稼ぎ中定吉は近所の女渡邊ミエ（三六）假名－と夫婦氣取りでゐる事を知り夫にかけ合つたが『平署で一切を解決してお前とは緣がなくなつた』と云ふ意外の言葉に吃驚し同署にかけ込んだもの、同署では全然關知した事でないので一たん夫の許に行くやうに引き取らせた

賣却依賴の株券消ゆる

平町三倉町片倉製糸工場養蠶技手永井昇（四五）氏は昨年十月同町五丁目株賣買業佐々木浦吉に日魯漁業新株五十株の賣却方を依賴し佐々木はこれを東京の成瀨株式店へ交渉中去る二十日急死したので同家の財産整理に當つてゐる佐々木の實兄双葉郡久の濱町々議佐々木糸平（五〇）氏に對し浦吉に預けた新株の返還を迫つた處、同人は前記の事情を知りながら妻カツ（四〇）と共謀、浦吉が借財あつた飯野村鈴木兼松に同株をやつてしまつたので今一日糸平を平署に橫領罪で告訴した

二日
（小名濱測候所發表）

日出　五、〇九　月出後　六、一二
日沒　六、〇四　月沒前　五、三九
滿潮　前三、三五　後四、二五　干潮　前一〇、二五　後一〇、三五

舊七月十七日　水曜　丁亥　大安　平　壁宿　新九月二日

諸判定應需　東京市本郷區湯島四丁目　高島易斷總本部　神　誠　碩

▲一白　諸事捗れども新規の事に手を出さゞるが吉▲二黑　努力もさびを生ず平生の仕入れが肝要▲三碧　人の力を當てにして不快の念を生ずるの日▲四綠　近道をせんとして却て迷路をたどるが如し▲五黃　優勢に逸りて輕卒に流るれば不利を招く▲六白　諸事沈着なれば災を逃ぐ焦慮を戒しむ▲七赤　急ぎて破れんより遲くも成功を期すべき日▲八白　氣運盛大なり耐忍努力は功績も大なる吉日▲九紫　烈風に逆ふ小雀の如し巢に在るが至極安全

廣告

天下一品マツイ　素人料理　おでん　榮ちやん　酒にやき鳥　冷ビールにサイダー　平・新田町・電三三番

安齋外科醫院　平町田町　電四七五番

御挨拶

殘暑を迎へます折柄謹みて皆々樣の御健康を御祈り申上げます。扨て私儀水野化粧院を開設致しましてから恰度今年で七周年を迎へました。微力の私共では到底迎へ得ざる永い歲月で御座いますが、これ偏に皆樣の御引立によるたまものと厚く御禮の言葉を申述べる次第で御座います。今度これが記念と、皆々樣への一層の御努めのためにオゾン理容器一台を備へつけました。この理容器具は近代美容術の機械化で御座いまして御使用後の御滿足は決して申迄もない事と固く御誓ひ致す次第で御座います。是非一度御試しあられます事をお願ひ致しますと共に七周年を迎へるに當り御最負の皆々樣方に御挨拶申上げる次第で御座います。

昭和十一年九月

平驛前　水野化粧院　主　水野冬子

電話　營業所　平驛前　六七八番　自宅　四軒町　水野商店　五二五番

御得意の皆樣方に

御禮

生ビール賣出し以來御最負を蒙り有難う御座いました。御蔭樣にて豫定の樽數も賣盡しました。就ては本日よりおでんを初めました、尙一層御最負の程を御願申上げます。

平一丁目　一平　電話二六三番

入院隨意（自炊の便あり）　外科專門　X光線科　平南町　上田醫院　病室完備　（電話　一二九）

内臟外科一般　外科花柳病科　（入院隨意）　平町六丁目（橋際）　木村外科醫院　電話　三〇九

電話番號變更　五十嵐產婦人科醫院　平町新川町一二　醫學博士　五十嵐雄二　電話　三六九番　（入院應需）